



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 B 13 14 15 17 18 19



國貞画

海軍

外頭
國安画

2378
336
~13



2378
336

筆始清書冊史序

梅と飛の墨と筆の雪は日小積り細工夫とて書と
書は人の趣向を長物語り短は智恵と人並小三平は
猿廻しとわらぬ筆の筆を先清春雙子とて書と
源藏少の山師道色なるも原よりきりて年習りて
横子車は高漫三十張とて書と一利に足ぬ道書を
書多しとて款假名本本、強けくされぬ儉けりて作者の
中史の面をて一類のてたて習ふとて

告維

孟春新彫

文尚堂扇圓識



加古河玄蕃



高武藏時平臣
斧野定九郎

叛官道之孫が
家臣大星源藏



与次郎
於妹
俊

山崎の
百姓
白太夫
与次郎



清書

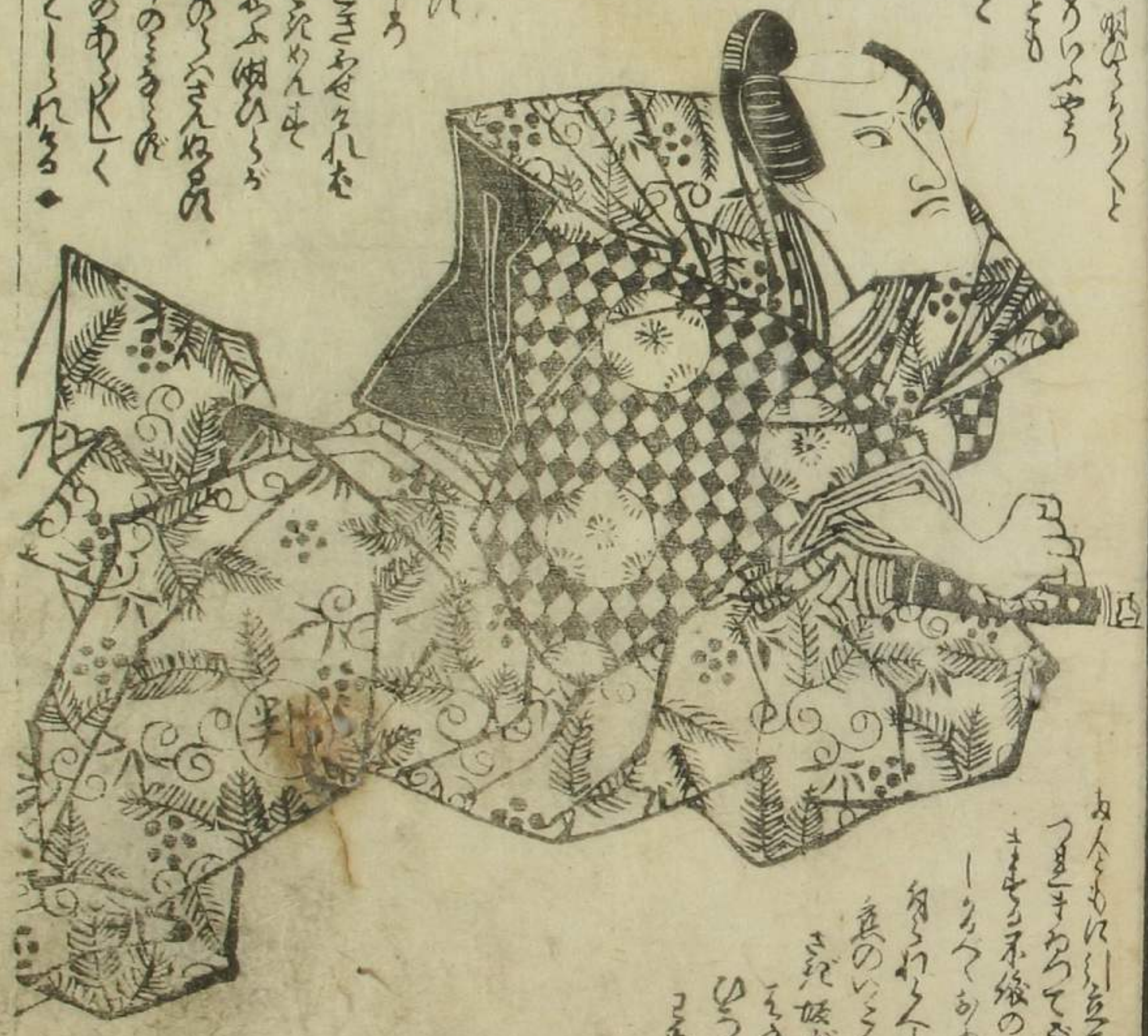
道の
早野の臣
傳兵衛

ついでつゝるゝりし
 月映はくしつゝるゝりし
 月映はくしつゝるゝりし
 月映はくしつゝるゝりし
 月映はくしつゝるゝりし
 月映はくしつゝるゝりし



月映はくしつゝるゝりし
 月映はくしつゝるゝりし
 月映はくしつゝるゝりし
 月映はくしつゝるゝりし
 月映はくしつゝるゝりし

月映はくしつゝるゝりし
 月映はくしつゝるゝりし
 月映はくしつゝるゝりし
 月映はくしつゝるゝりし
 月映はくしつゝるゝりし
 月映はくしつゝるゝりし
 月映はくしつゝるゝりし
 月映はくしつゝるゝりし
 月映はくしつゝるゝりし
 月映はくしつゝるゝりし



月映はくしつゝるゝりし
 月映はくしつゝるゝりし
 月映はくしつゝるゝりし
 月映はくしつゝるゝりし
 月映はくしつゝるゝりし

Handwritten text on the right side of the top page, written vertically in a cursive style.



Small handwritten text located at the top left of the right page.

Vertical handwritten text on the left side of the bottom page.



Small handwritten text on the far left edge of the bottom page.

Horizontal handwritten text at the bottom of the left page, possibly a signature or title.

○はとん源房は
かみさるるもの
はわきせしこと
ぬきしこと
あつたこと
ひびきに
あつたこと
ひびきに
あつたこと
ひびきに
あつたこと



▲このついでに
かみさるるもの
はわきせしこと
ぬきしこと
あつたこと
ひびきに
あつたこと
ひびきに
あつたこと
ひびきに
あつたこと

このついでに
かみさるるもの
はわきせしこと
ぬきしこと
あつたこと
ひびきに
あつたこと
ひびきに
あつたこと
ひびきに
あつたこと



▲このついでに
かみさるるもの
はわきせしこと
ぬきしこと
あつたこと
ひびきに
あつたこと
ひびきに
あつたこと
ひびきに
あつたこと

つぎその金とこれにやのトヤとんか付きぬ
 むびんれの式まきりてやりとあつたらうま
 ちうぎのトヤとんか付きぬ
 むびんれの式まきりてやりとあつたらうま
 ちうぎのトヤとんか付きぬ
 むびんれの式まきりてやりとあつたらうま
 ちうぎのトヤとんか付きぬ
 むびんれの式まきりてやりとあつたらうま

● 叔もたれ一源義が二年とたますく
 うつとわらふととて此のよとゆかんとせ
 一正義をさるひのよとあつとてとてとて人
 なる内へんあつとてとてとてとてとてとて
 ととととととととととととととととととと
 ねつてあつとてとてとてとてとてとてとて
 一正義をさるひのよとあつとてとてとて人
 なる内へんあつとてとてとてとてとてとて
 ととととととととととととととととととと

つぎその金とこれにやのトヤとんか付きぬ
 むびんれの式まきりてやりとあつたらうま
 ちうぎのトヤとんか付きぬ
 むびんれの式まきりてやりとあつたらうま
 ちうぎのトヤとんか付きぬ
 むびんれの式まきりてやりとあつたらうま



つぎその金とこれにやのトヤとんか付きぬ
 むびんれの式まきりてやりとあつたらうま
 ちうぎのトヤとんか付きぬ
 むびんれの式まきりてやりとあつたらうま
 ちうぎのトヤとんか付きぬ
 むびんれの式まきりてやりとあつたらうま

〇三〇〇一 此の事は... 〇三〇〇二 此の事は... 〇三〇〇三 此の事は... 〇三〇〇四 此の事は... 〇三〇〇五 此の事は... 〇三〇〇六 此の事は... 〇三〇〇七 此の事は... 〇三〇〇八 此の事は... 〇三〇〇九 此の事は... 〇三〇一〇 此の事は...

〇三〇一一 此の事は... 〇三〇一二 此の事は... 〇三〇一三 此の事は... 〇三〇一四 此の事は... 〇三〇一五 此の事は... 〇三〇一六 此の事は... 〇三〇一七 此の事は... 〇三〇一八 此の事は... 〇三〇一九 此の事は... 〇三〇二〇 此の事は...

〇三〇二一 此の事は... 〇三〇二二 此の事は... 〇三〇二三 此の事は... 〇三〇二四 此の事は... 〇三〇二五 此の事は... 〇三〇二六 此の事は... 〇三〇二七 此の事は... 〇三〇二八 此の事は... 〇三〇二九 此の事は... 〇三〇三〇 此の事は...

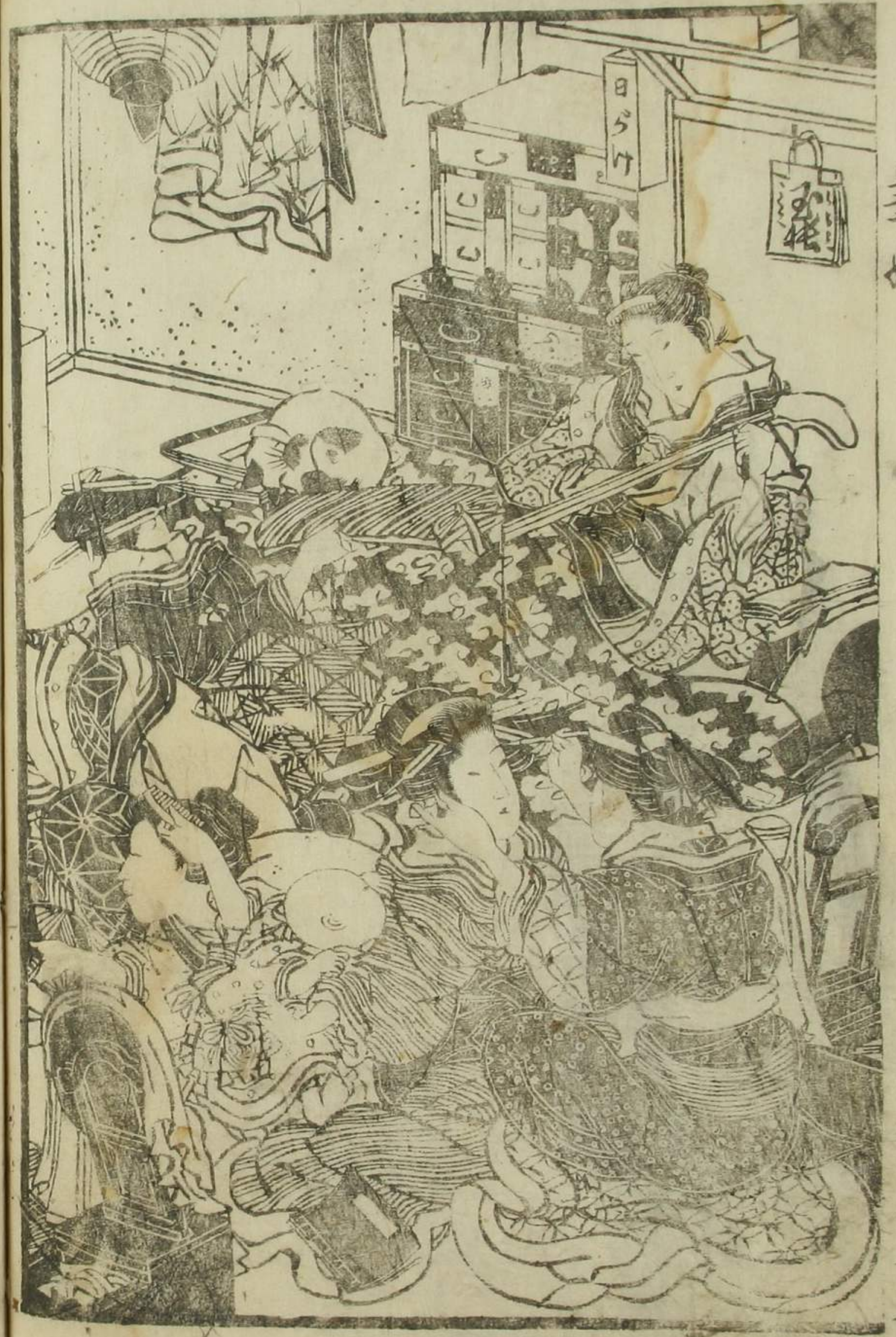


〇三〇三一 此の事は... 〇三〇三二 此の事は... 〇三〇三三 此の事は... 〇三〇三四 此の事は... 〇三〇三五 此の事は... 〇三〇三六 此の事は... 〇三〇三七 此の事は... 〇三〇三八 此の事は... 〇三〇三九 此の事は... 〇三〇四〇 此の事は...

琵琶小路見上屋



華房



華房





一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、



一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

ついでに丹波のしんをこめて
玉のたまき...の秋のふと
りゆわて...はく...
ら...
あ...
ゆ...
あ...
あ...
あ...
あ...



あ...
あ...
あ...
あ...
あ...
あ...
あ...
あ...
あ...

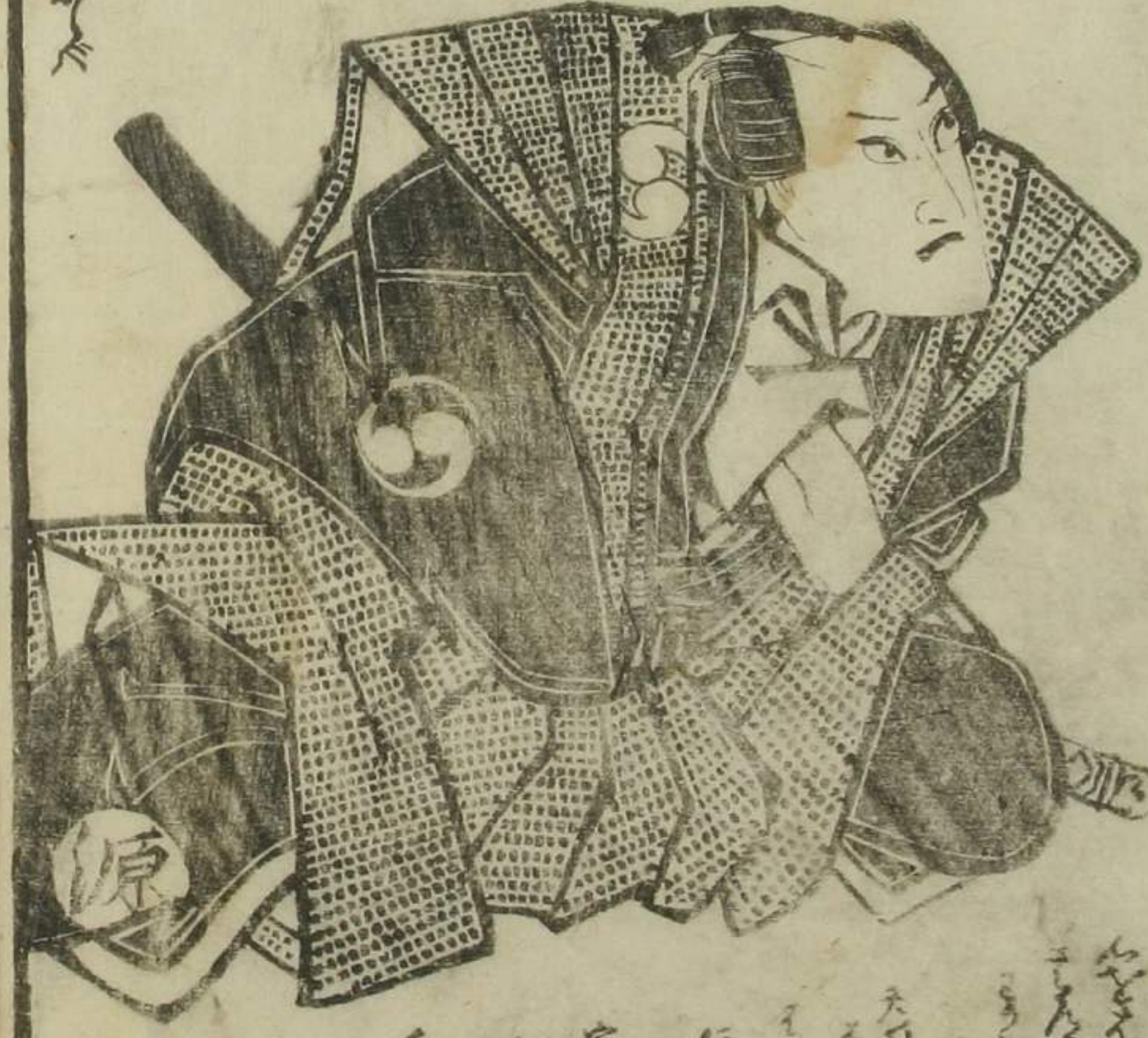
▲にせ...
あ...
あ...
あ...
あ...
あ...
あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...
あ...
あ...
あ...
あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...
あ...
あ...
あ...
あ...
あ...
あ...



ついでに源氏... 梅の老い... 梅の花... 梅の葉... 梅の影... 梅の香... 梅の味... 梅の触... 梅の思... 梅の情... 梅の心... 梅の魂... 梅の魄... 梅の精... 梅の神... 梅の靈... 梅の魂... 梅の魄... 梅の精... 梅の神... 梅の靈...



源氏物語... 梅の老い... 梅の花... 梅の葉... 梅の影... 梅の香... 梅の味... 梅の触... 梅の思... 梅の情... 梅の心... 梅の魂... 梅の魄... 梅の精... 梅の神... 梅の靈...

ついでに源氏... 梅の老い... 梅の花... 梅の葉... 梅の影... 梅の香... 梅の味... 梅の触... 梅の思... 梅の情... 梅の心... 梅の魂... 梅の魄... 梅の精... 梅の神... 梅の靈...

ついでに源氏... 梅の老い... 梅の花... 梅の葉... 梅の影... 梅の香... 梅の味... 梅の触... 梅の思... 梅の情... 梅の心... 梅の魂... 梅の魄... 梅の精... 梅の神... 梅の靈...



ついでに源氏... 梅の老い... 梅の花... 梅の葉... 梅の影... 梅の香... 梅の味... 梅の触... 梅の思... 梅の情... 梅の心... 梅の魂... 梅の魄... 梅の精... 梅の神... 梅の靈...

此の物語は、
 天竺の王子が、
 日本に渡り、
 大活躍する
 事だ。



此の物語は、
 天竺の王子が、
 日本に渡り、
 大活躍する
 事だ。



此の物語は、
 天竺の王子が、
 日本に渡り、
 大活躍する
 事だ。

國貞畫

文尚堂庸圓作



文政二己卯年文壽書堂 新彫草紙目錄

狹野八橋 贖鉢植 全冊 曲亭馬琴作

千瀬川 增補虎之卷 全冊 柳亭種彦作

五曉 狐拳之濫觴 全冊 柳亭種彦校

於花半七 因縁物語 狐拳之濫觴 全冊 哥川國安画

故交 鹽梅餘詩 全冊 文尚堂虎圓作

地本問屋 文壽堂 丸屋文右衛門

あま残出板賣出 江戸神田弁慶橋通北

